

院外処方せんに記載されている検査値一覧表

2022年2月現在

検査名	検査項目名	項目の説明	基準範囲	単位
WBC	白血球数	血液の成分の一つで、異物の侵入に対抗して体を守る働きをしています。少ない場合は、体の防御反応が低下して、病気にかかりやすことを意味しています。白血球の増減を知ること、体の状態を把握したり病気の推定に役立ちます。	3.3~8.6	10 ³ /μL
Hb	ヘモグロビン	赤血球中で酸素の運搬を担うタンパク質の量です。貧血や多血症を推測することができます。	男：13.7~16.8 女：11.6~14.8	g/dL
PLT	血小板数	血液の成分の一つで、血管に傷ができると直ちに蓋をして血を止める働きをしています。血小板の数が低下したり、その機能が低下すると血が止まりにくくなります。	158~348	10 ³ /μL
AST(GOT)	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	肝臓、心臓、筋肉の細胞に多く含まれている酵素で、肝障害や心筋梗塞などで高くなります。	13~30	U/L
ALT(GPT)	アラニンアミノトランスフェラーゼ	肝臓に多く含まれている酵素で肝臓や胆道の病気で高くなります。肝臓細胞の障害を敏感に反映します。	男：10~42 女：7~23	U/L
T-BiL	総ビリルビン	胆汁色素で、主に肝臓・胆道の障害で高くなり、黄疸の指標になります。	0.4~1.5	mg/dL
CRE	クレアチニン	運動のエネルギー源となるアミノ酸が代謝されてできた物質で腎臓から排泄されます。腎臓の機能をみています。	男：0.65~1.07 女：0.46~0.79	mg/dL
CK(CPK)	クレアチニンキナーゼ	心臓や骨格筋などの損傷の程度を反映します。心筋梗塞などの心臓病や筋肉の病気で高くなります。	男：59~248 女：41~153	U/L
CRP	C 反応性蛋白	体に炎症があると高くなり、回復とともに低くなります。炎症のほか心筋梗塞などでも高くなります。	0.00~0.14	mg/dL
PT-INR	プロトロンビン時間 (標準比)	血液の凝固能を示す検査値です。	-	単位なし
HbA1c (NGSP)	ヘモグロビンA1c	過去1~2か月の平均的な血糖値を反映し、高血糖状態が続くと高くなります。糖尿病での血糖値管理に有用です。	4.9~6.0	%
血糖(随時)	血糖値	検査時の血糖値が表示されます。	-	mg/dL
K	カリウム	神経伝達や筋伸縮に関与しています。電解質のバランスの指標で、水代謝異常や電解質異常で変動します。	3.6~4.8	mmol/L
Ca(新)	カルシウム	骨の病気やさまざまな内分泌の病気で変動します。また、心臓や血管の働きをつかさどる大切な物質です。	8.8~10.1	mg/dL